

だから。」「
在日韓国人の中には、日本の名前に変えて
生活する子がたくさんいるのです。さらには、
自分が韓国人ということを知らないままにい
る子も多くいます。これはサマースクールで
学んだことなのですが、全国には約六十万人
の在日韓国人がいるそうです。東海・北信地
方には、約二千人も在日韓国人がいるのに、
今回のサマースクールは、二十一人しか参加
者がいませんでした。つまり、今、「韓国人
である」ということを隠す「人が多くなっ
てきているのです。」「アイヌ民族のビデオを
見た。ビデオには、「アイヌレブルス」とい
う、民族差別と戦う人たちの活動実録がおさ
められていました。アイヌレブルスのメンバ
ーの方も、やっぱり初めはアイヌ人というこ
とを周りに打ち明けることができなかつたそ
うです。私は、やっぱり民族が違っても抱え
ている悩みは同じなんだなと思いました。」

アイヌレブルスの方たちは、アイヌ文化を
みんなに理解してもらうために、地元の祭り
のライブに参加していました。アイヌ人のお
年寄りには、涙を浮かべて見ていました。会場
のみんなが一緒に手をたたき、会場とアイヌ
レブルスが一体となっていて楽しんでいる中、一
人の中年の男が通りすがりに「うるせーんだ
よ！」と怒鳴ってきたのです。ビデオを見て
いた私たちは、「あっ」と思わず声をもらし
てしまいました。でも、アイヌレブルスの人
たちは気にも留めず、ライブを続けました。
私は、このアイヌレブルスの強さに感動しま
した。なにより、アイヌへの「愛」を強く感
じました。
二日目の夜。その日は屋外でキャンプファイ
ヤーをしました。サマースクールは二泊三日
なので、明日の朝には帰らなければなりま
せん。本当に最後のイベントでした。
キャンプファイヤーの前で、「サマースク
ールから帰ったらどういうことに取り組むか」

と、いうことを宣言する企画で、今年でサマー
スクールを卒業する高校三年生のお姉さんが、
「私は韓国人だ」ということをずっと隠して生
活してきました。もちろん友達に言うことも
できませんでした。だけど、サマースクール
から帰ったら、本名宣言します！」と宣言し
ました。彼女は友達と肩を抱き合い、号泣し
ていました。私には、彼女の気持ち痛いほ
ど伝わってきました。就寝時間に
キャンプファイヤーが終わり、

なつても、私は眠ることができませんでした。
この二日間で、改めて民族について考えさせ
られました。アイヌレブルスの自分の民族へ
の愛と誇り。本名を明かさうとしない友達、
勇気を出して本名宣言をしたお姉さん。
「民族」というのは、文化や歴史、言語も
全然違うけれど、人々が民族や国を思う気持
ちは世界共通なのではないでしょうか。パレ
スチナやイスラエルでも、民族同士の争いが
絶えませんが、それも民族への「愛」の裏返

しなのかもしれません。誰も自分自身の民
族を愛しているからこそ、争いが絶えないの
ではないでしょうか。
この夏休み、サマースクールに参加して、
変わったことが二つあります。
一つ目は、世界の民族に対する考えです。
民族一つ一つにそれぞれの歴史があるという
ことに改めて気づかされました。
二つ目は、トレードマークだった「韓
国」は、今は私の誇りに変わったということ
です。